



Title	第8回生物学技術研究会に参加して
Author(s)	川端, 清見; 津久井, 孝博
Description	研修等参加レポート
Citation	北海道大学農学部技術部研究・技術報告, 5, 16-17
Issue Date	1998-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/35352
Type	departmental bulletin paper
File Information	5_p16-17.pdf



第8回生物学技術研究会に参加して

附属植物園 川端 清見・津久井 孝博（環境・飼育系 植物管理班）

はじめに

1997年3月13日～14日岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所において開催された、第8回生物学技術研究会に参加する機会を得たので報告する。

岡崎国立共同研究機構（図 1）は、愛知県岡崎市にある文部省所轄の大学共同利用機関で、基礎生物学研究所、分子科学研究所、生理学研究所、管理局の4つの施設から成り立っている。本研究会の主催は基礎生物学研究所である。本研究所は細胞生物学研究系など3つの研究系、培養育成研究施設など3つの研究実験施設と技術課から構成されている。生命現象における基礎的事項の究明を目的とし、動植物を対象にして、細胞の構造や機能、器官の分化・形態形成や外界刺激に対する反応機構の解明といった総合的研究を行なっている。

本研究会は、大学及び研究機関等の生物学研究分野にかかわる技術職員が日常行っている幅広い研究支援等の技術活動の成果や問題点を発表討論することにより技術の向上と交流を図ることを目的としている。今回は全国から80名近くの技術職員が集い、北海道からは本学附属植物園と免疫科学研究所、帯広畜産大学附属農場が参加した。以下に本会の日程、概要と本会に参加しての感想を述べる。



図 1 岡崎国立共同研究機構の案内図

昭和52年に当機構の前身である生物科学総合研究機構が創設され、昭和56年に岡崎国立共同研究機構として運営が開始された。技術課は前身の機構創立当時から設置されており、平成8年度で32名の技官が所属している。

生物学技術研究会の日程と概要

1日目

12時より受け付けが始まり、開会の挨拶と事務連絡の後、7題の一般講演が行われた。発表は、実験材料の採取や飼育からゲノム分析まで多岐にわたるテーマが発表され、盛んな討論が行われた。特に生化学的手法の進歩が感じられた。

なお本講演では津久井が「栽培条件下における野生植物の受粉と種子生産」で発表を行い、その内容は「生物学技術研究会報告（1997）8：pp14-16、基礎生物学研究所技術課」に掲載した。発表の後、別室においてポスター発表があり、自由閲覧と討論が行われた。18時より懇親会が行われ、日頃の研究の技術的支援に関する問題点などを話し合うことができ参考になった。

2日目

9時の事務連絡の後、基礎生物学研究所 服部 宏之技術課長より「アメリカの大学における研究支援活動：テクニシャンの実情」についての報告があった。アメリカでは日本の技官に相当する職はテクニシャンと呼ばれている。本講演から、アメリカの雇用スタイルと関連して、テクニシャンの研究支援は常に論文等の成果と強く結び付いており、厳しい評価がされている現状がわかった。また本研究所鈴木義昭教授による「胚はどのようにして各器官の特殊性をきめて行くのか」という演題で特別講演があった。その後、一般講演7題の発表と意見交換が行われた。そして2日間のまとめとして本会の感想や討論が交された。閉会の後、引き続いて施設見学があり、見学終了後解散となった。

参加発表を終えて

服部(1997)の報告から、アメリカの技術職員は研究者の論文作成やその結果得られる講座費等の費用獲得に貢献していることがわかる。研究の過程が論文に集約されているとすれば、技術職員は論文の材料と方法（Materials and Methods）の段階に深く関与しているといえる。そして良い材料と方法技術の提供のためには技官の研究の過程全般を通した深い学問的知識が不可分である点は日米共通であるといえる。

また日本の大学技術職員の仕事は研究過程に深く関連する一方で、研究の領域以外にも多岐に及び研究者との位置付けが曖昧である点がよく指摘されるところである。この指摘される多様性とそれに伴う曖昧さは研究活動とは全く無関係に発生した訳ではないと考えられる。これからはむしろこれらを直視して、科学研究の周辺領域をカバーするメタ科学(meta-science)的領域として取り扱うことができる可能性を本会の参加発表を終えて感じた。

最後に研究会の参加に深い理解をくださった農学部技術部長、技術部職員並びに諸手続きにお骨折りいただいた農学部事務職員の皆様に感謝いたします。

参考文献

服部 宏之（1997）アメリカの大学における研究支援活動：テクニシャンの実情。生物学技術研究会報告8：pp6-9基礎生物学研究所技術課